



# 八幡鍍金工業株式会社

## 2024年度 環境経営レポート

(2024年4月～2025年3月)



®環境省

エコアクション21

認証番号0004215

(2009年10月 2日 登録)

(2023年10月 2日 更新)

作成： 2024年7月28日

改訂：

# 環境経営方針

## <環境理念>

我々八幡鍍金工業株式会社は金属表面処理の事業活動の中で、環境保全を重要課題として再認識し10年, 50年, 100年後も自然と共存できる企業体制を構築していく事を環境理念として環境経営方針を掲げ、経営者及び従業員一同一丸となって継続的に環境との共存を推進します。

## <環境保全への行動指針>

当社 金属表面処理の事業活動である防錆処理による環境負荷の低減のみならず作業工程を見直し、より一層環境との共存の為に次の様な環境経営方針を定めます。

1. 環境関連法令及び、条例などの規制事項を順守します。
2. 以下について環境目標及び実施計画を立て、企業体制を継続的に改善し、積極的に環境負荷低減に努めます。
  - ①温室効果ガスである二酸化炭素の低減
  - ②節水の積極的な取り組み
  - ③希少金属・化学物質使用量の削減
  - ④産業廃棄物の減量
  - ⑤グリーン購入
3. 当社で働くすべての従業員に環境経営方針を周知します。
4. 環境経営方針及び環境経営レポートをホームページにて公開し、常時閲覧可能にします。

制定日：2008年11月18日

改定日：2019年08月22日

八幡鍍金工業株式会社

代表取締役社長

八幡義一

## □登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

八幡鍍金工業株式会社  
代表取締役社長 八幡 義一

(2) 所在地

本社平井工場:東京都江戸川区平井5-20-9  
篠崎工場:東京都江戸川区篠崎町3-33-11

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

担当者:八幡 浩二 TEL:03-3617-7707  
責任者:八幡 浩二 TEL:03-3670-2120

(4) 事業内容 (認証・登録の範囲)

金属製品等のめっき、塗装および表面処理加工  
めっき等種類:ダブルニッケル・黒ニッケル・クロム・黒クロム・代用金  
                  本金・各種ブロンズ・各種つや消し・無電解ニッケル・PTFE複合  
環境対応処理:無電解ニッケル(RoHS対応)

(5) 事業の規模

活動規模	単位	2022年度		2023年度		2024年度	
		平井	篠崎	平井	篠崎	平井	篠崎
主要製品 処理面積	m <sup>2</sup>	853.05		785.101		726.198	
売上高	百万円	238		221		197	
従業員	人	3	24	3	24	2	27
		27		27		29	
床面積	m <sup>2</sup>	全工場 1680.02		全工場 1680.02		全工場 1680.02	

※シングルは品物を1つ、ダブルは2つ  
掛けるキャリアを有する自動機の事

(6) 事業年度

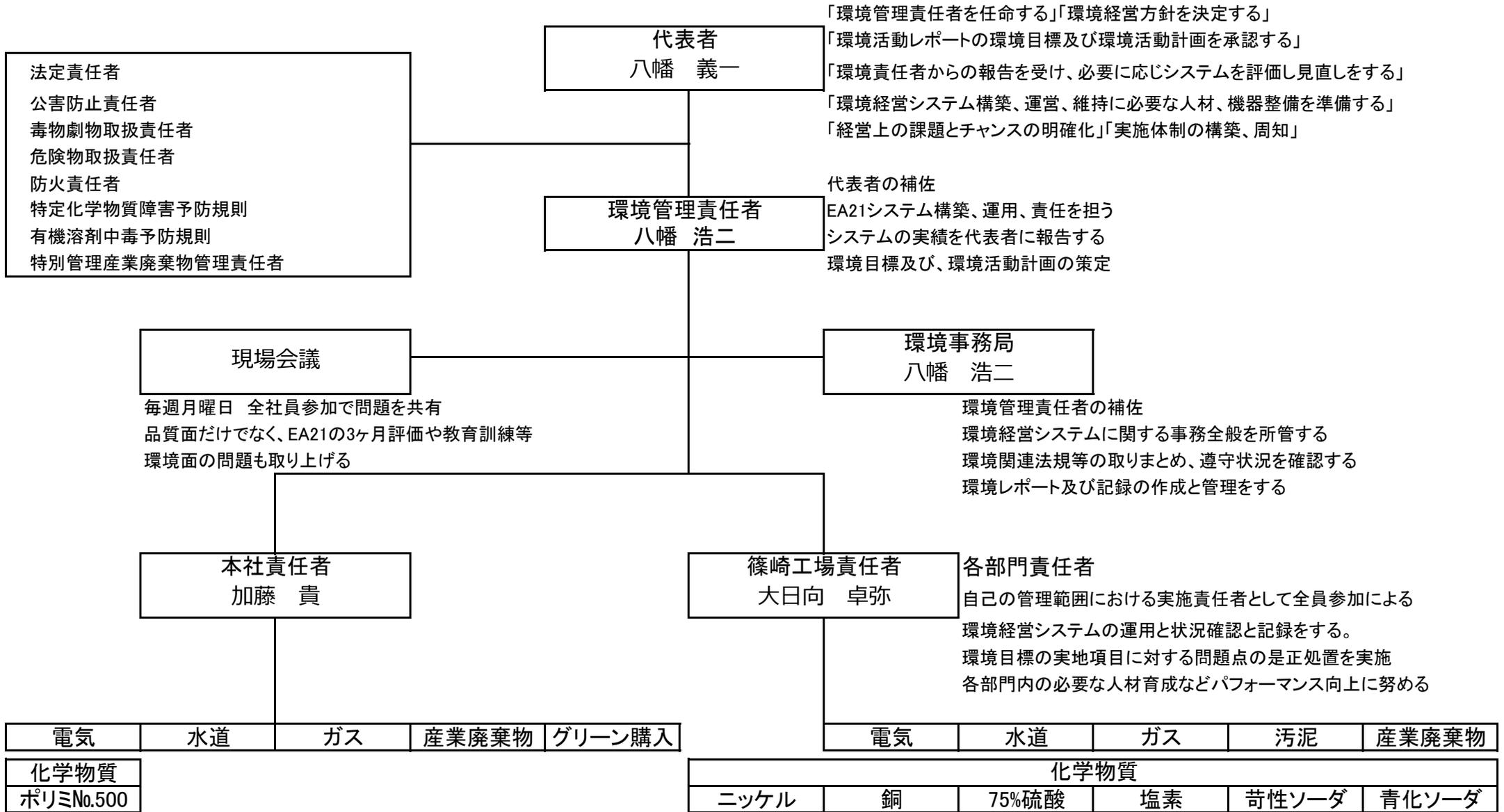
4月～翌年3月

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	工場	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量 (エネルギー総量) 石油系・ガソリン燃料 含む	kg-CO2 /年	平井	11,112	10,673	11,197
		篠崎	296,211	279,110	274,895
		合計	307,323	289,783	286,092
	C02 排出係数	平井	0.474	0.474	0.474
		篠崎	0.474	0.474	0.474
産業廃棄物排出量	t/年		17.6	11.89	13.76
総排水量	m <sup>3</sup> /年	平井	248	264	202
		篠崎	3,875	4,425	4,279

# EcoAction 21環境対策組織図

2021/10/1



## 環境経営目標(単年度及び中長期目標)

環境項目		環境目標	事業所	実績・基準 2023年度	単年度 2024年度	中長期目標		責任者
						2025年度	2026年度	
二酸化炭素の削減	電気 使用量	対前年度比 1%削減 Kg-CO2/百万円 CO2/売上	平井	46.2	45.77	45.31	44.86	加藤 (貴)
			篠崎	449.9	445.36	440.90	436.49	新田
	ガス 使用量		平井	31.2	30.87	30.56	30.26	加藤 (貴)
			篠崎	750.4	742.92	735.49	728.13	大日向
節水対策	水道 使用量	対前年度比 3%削減 m <sup>3</sup> /百万円 水道量/売上	平井 上水	1.01	0.98	0.95	0.92	加藤 (貴)
			篠崎 上水	9.9	9.60	9.31	9.03	佐藤
			元 工水	7.7	7.43	7.21	6.99	佐藤
産廃物の軽減	産業 廃棄物	対前年度比 1%削減 Kg/百万円 廃棄量/売上	平井	0.7	0.68	0.67	0.66	加藤 (貴)
			篠崎	6.7	6.63	6.56	6.49	小林
	汚泥		篠崎	73.2	72.43	71.71	70.99	大日向
化学物質削減	ニッケル 金属	対前年度比 2%削減 Kg/百万円 使用量/売上	篠崎	22.6	22.19	21.74	21.31	緒方
	銅金属		篠崎	10.88	10.66	10.45	10.24	古川
	75% 硫酸		篠崎	29.3	28.68	28.10	27.54	山崎
	苛性 ソーダ		篠崎	0.9	0.86	0.85	0.83	山崎
	塩素		篠崎	0.5	0.47	0.46	0.45	山崎
	青化 ソーダ		篠崎	0.66	0.64	0.63	0.62	古川
	ホリミNo.500 1019クリヤ		平井	0.33	0.33	0.32	0.31	加藤 (貴)

2024/7/2

# 環境経営目標達成状況及び環境経営計画実施状況及び3ヶ月評価

2024年度(2024年4月～2025年3月)

環境項目	環境取組計画の内容	環境目標	事業所	2023年度	2024年度(2024年4月～2025年3月)		評価	責任者	結果と評価	
				実績	目標	実績				達成率
二酸化炭素の削減	電気使用量 ①電気ヒーター間欠による節電 ②メンテナンスによる電力負荷低減(ベアリング、ベルト等) ③不要な電灯、電化製品のオフ	対前年度比 1%削減	平井	46.7	46.2	48.2	96%	○	加藤(貴)	塗装作業終わりにコンプレッサの電源の切り忘れがないようにしたい。
			篠崎	406.9	402.8	405.4	99%	○	新田	全体的なグリスアップなどのメンテナンスができていたのでひきつ付き行っていきたい こまめに電気を消すように心がける
	ガス使用量 ①乾燥釜効率化 ②釜、または熱交の清掃(熱交換率Up) ③ボイラー稼働時間の短縮 断熱剤等による保温・余熱で流せる所はボイラーを切る	kg-CO2/百万円 CO2/売上	平井	31.5	31.2	28.9	108%	○	加藤(貴)	毎年良い良い結果が出ているので継続していきたい
			篠崎	758.0	750.4	778.4	96%	○	大日向	余熱をうまく使い早く消すことを心掛けたい
節水対策	水道使用量 ①水をこまめに止める ②漏水箇所防止の徹底 ①高圧洗浄機導入による、清掃作業の効率化 ②各ライン内の水洗オーバーフロー水量の見直し ③各ライン内の水洗タンク更新周期の研究 ④必要ない水は止める	対前年度比 3%削減 m <sup>3</sup> /百万円 水道量/売上	平井 上水	1.04	1.01	1.19	85%	○	加藤(貴)	良い結果がでているので継続していき
			篠崎 上水	10.2	9.9	11.7	85%	○	佐藤	ノルマを達成したが、もう少し達成を上げたい
			工水	7.9	7.6	8.3	92%	○	佐藤	100%以上をキープできるのでこれからも維持していきたい
			産廃物の軽減	①持ち込み梱包剤の再利用 ②事務用紙の再利用 ③ゴミを社内に溜めない ①持ち込み梱包剤の再利用 ③必要無いものは入庫せず、無駄な廃棄物を出さない	対前年度比 1%削減 kg/百万円 廃棄量/売上	平井	0.69	0.68	0.58	117%
篠崎	6.76	6.69	7.47			90%	○	小林	今年度は売上が少ない中、ゴミなどをあまりださなかったもので、このまま続けていきたいとおもいます。	
化学物質削減	ニッケル金属 ①効率のよいラインへのNiめっき製品の移動 ②Niめっき液回収の効率化 ③Niチップの落下防止	対前年度比 2%削減 kg/百万円 使用量/売上	篠崎	23.1	22.7	28.1	81%	○	緒方	管理伝票システムがアップロードされこれにより詳しい条件が入力することができるようになったために、品物に対して、より適切な条件セットが現場でできるようになった。
			篠崎	11.8	11.5	10.9	106%	○	古川	かなり削減もきびしくなりました。再度低濃度浴にチャレンジするのは難しく、今度も液管理を中心に必要以上の膜厚をつけない努力、不良ゼロを目指す。
	75%硫酸 ①必要以上の濃度の硫酸を薬品注入タンクに入れない。 ②過度な薬注や脱脂液処理への過剰使用に気をつける		篠崎	29.86	29.26	27.09	108%	○	山崎	このまま継続していきたいと思います
	塩素 ①必要以上の濃度の塩素を薬品注入タンクに入れない ②塩素容器内を水洗いし無駄なくタンクへ注入		篠崎	0.94	0.92	0.68	135%	○	山崎	更新頻度が前回と比べて少なかったなのでこの結果になったと思われる次年度は使用量に気を付けてやっていきたいと思います
	苛性ソーダ ①必要以上の濃度の苛性を薬品注入タンクに入れない		篠崎	0.49	0.48	0.51	94%	○	山崎	このまま継続していきたいと思います
	青化ソーダ ①青化銅・真鍮・代用金めっきの不良を出さない様にする		篠崎	0.59	0.58	0.63	92%	○	古川	液管理もある程度安定していて、分析の結果を踏まえてすぐに対応したのが良い結果となりました。引き続き不良を出さないようにして努力し 液管理も注意していきます。
	ポリNo.500 1019クリヤ ①塗装作業の効率化 ②塗料の再利用		平井	0.34	0.33	0.36	92%	○	加藤(貴)	塗料の作り過ぎがないように確認していく。

※評価 ○=80%以上 △=70%以上 ×=70%未満(2009年4月改訂) ※評価×の物に対しては、是正策を立てる。 ※2024年04月～2025年03月までの数値を2024年度としている。

※加工業が今直面している問題を踏まえて、基準目標値に当たっては年度売り上げに対しての数値を基準することにした。

# 環境関連法規・その他要求事項及び順守状況のチェック

八幡鍍金工業株式会社

法規名称	規制の概要	該当		順守
		本社	篠崎	
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 [フロン排出抑制法]	フロン類の適正な回収・破壊による大気中への放出抑制の遵守	/	○	✓
	3ヶ月に1度の簡易点検・1年に1度の定期点検			
下水道法	排除基準の遵守義務	○	○	✓
	特定施設の設置届出	○	○	✓
	事故時の応急措置・届出義務	○	○	✓
	排水濃度の測定・記録義務(5年間)	○	○	✓
改正水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の点検	○	○	✓
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 [廃棄物処理法]	一般廃棄物の収集運搬業者への委託処理	○	○	✓
	産業廃棄物の運搬又は処分を自らおこなう場合の基準	○	○	✓
	産業廃棄物の保管基準	○	○	✓
	産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合の委託先	○	○	✓
	産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合の基準	○	○	✓
	特別管理産業廃棄物管理責任者の設置義務	○	/	✓
	産業廃棄物管理票の交付義務 管理票の記載事項確認及び保存	○	○	✓
毒物及び劇物取締法 [毒劇法]	毒物劇物取扱責任者の設置・届出	○	○	✓
	毒物劇物取扱責任者の資格	○	○	✓
	毒物劇物の取扱	○	○	✓
	毒物劇物の表示	○	○	✓
	毒物劇物の事故時の応急措置・届出、盗難紛失時の届出	○	○	✓
	毒物劇物の取扱に関する届出 (電気めっき業者がシアン化合物を取扱う場合は届出義務有り)	○	○	✓
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律 [PRTR法]	事業者の責務	○	○	✓
	化学物質の排出量、移動量の把握及び届出	○	○	✓
	MSDSの提供	○	○	✓
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任(10~49人)の事業場	○	○	✓
	作業環境測定の義務	○	○	✓
	健康診断の義務	○	○	✓
	化学物質に関するリスクアセスメント	○	/	✓
	化学物質管理者の選任		/	✓
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 [グリーン購入法]	グリーン購入を行なう	○	○	✓
有機溶剤中毒予防規則 [有機則]	有機溶剤の取扱所での掲示	○	/	✓
	有機溶剤作業主任者の選任	○	/	✓
	局所排気装置の定期自主点検の実施	○	○	✓
	作業環境測定の義務	○	○	✓
	特殊健康診断の実施・報告	○	○	✓
特定化学物質障害予防規則 [特化則]	密閉又は局所排気装置の設置義務	○	○	✓
	関係者以外の立入禁止処置	○	○	✓
	特定化学物質作業主任者の選任	○	○	✓
	健康診断の義務	○	○	✓
東京都環境基本条例	環境負荷の低減の努力	○	○	✓
	公害防止・自然環境保全に必要な措置	○	○	✓
廃棄物処理法	産業廃棄物管理票交付状況報告書を知事に提出	○	○	✓
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 [東京都環境確保条例]	工場認可及び工場変更認可	○	○	✓
	公害防止管理者の選任と届出	○	○	✓
	適正管理化学物質の使用量等の報告	○	/	✓
東京都下水道条例	東京都下水道条例の責任者の選任と届出	○	○	✓

環境関連法規の改廃状況を確認しました。評価の結果違反はありません。

なお関係当局より違反の指摘、第三者からの訴訟もありません。(2025年7月19日)

順守評価年月日 2025/7/7

## 代表者による全体の評価と見直し 2025 年 07 月 28 日

EA21 開始 17 年目（代表者交替後 7 年目）あたる 2024 年度期は、売上シェア上位の主力部品数点の減産傾向、一部・廃業特需、品管トラブルの解決などでの新案件獲得の努力を続けているが、入社以来過去最低売上の前期から 6 月が経過するが回復の兆しが見られず、この状態がことし 5 月まで続くという情報もあり、生産性を向上させた製造部も処理する製品がなく、売上が立たぬ中めっき原材料の経費節減だけでは凌げない厳しい状況が続く年となった。全項目達成率は悪い数字では無いが、過去 20 数年で最低の売上から前期比更に一割減った売上が原因で、「売上当たりの使用量の低減」を指標としている弊社では、ここ数年で最も悪い成績となるはずであったが、値上げ効果で達成率を維持している。

「多能工育成」、「労働力の集約」による社員教育と省人化を継続するにも仕事量が少なすぎる。更に価格改定の申請を取引先ごとの状況を確認しながらに行い適正価格での取引を目指してきたが、製品の転注やめっき分野への取引先の事業撤退の引き金となり得ないと指摘を受け現状は申請依頼もストップしている。しかし社内自作の生産システムを中心に QCD 活動で、生産性の高い組織としての機能を維持しながらも、めっき原材料（＝環境負荷物質）の使用量を低減や、業界別の景況感を見極めた、めっき加工賃の再制定を慎重に行う事は継続的に行って目標の達成率を実現していく。

来期も自律的な環境経営に基づいた組織作りを積み重ねエコアクション 21 の活動を通してめっき技術で持続可能な社会への貢献をすることで、「社員の誇れる企業」を目指す。

代表の見直し結果	必要無	必要有
① 環境方針の変更	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 環境目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 環境活動計画の変更	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
④ 環境経営システムの変更	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

以上

八幡鍍金工業株式会社

代表取締役社長

八幡義一